

反戦会議

通信

82 5.20
No. 69

東京教育大学

全学反戦會議

今又教授会田交を以て、庄学斗の新たに進軍を開始せよ！

本日の井川学部教授会田交に結集された教育大學生斗の全ての學友諸君！我々は本日の教授会田交を以てロツクアント粉碎に向けた断乎とした隊列を打ち固めていかねばならない。我々は又教授会の學校当局推進派によるロツクアント策動に対する無効性を露呈し、大學院入試強行の自己批判を通り、一切の授業再開の動きを粉碎していくキのとして斗い技がれねばならないだろう。

このヨリこのキのは明確に現在収拾する大學斗争の全面的圧殺の攻撃として存されでモたとニ、大學治安立法に対する反対の度の追求を媒介としつつ、この大學立法の実体化としてある現在のロツクアントに対する彼らの無力さをつき出すものとて斗い技がれなければならぬのであろう。我々はかかる斗いを通じ教育大斗争の永続的發展めざしてヨリいやく意志一致を以つて、一切の正常化策動を粉碎し再度學園を掌握する斗りをかちとていれおけねばならない。

八、大學治安立法粉碎に向け、学園大学パリードスト上で決起せよ！

至ての學友諸君！現在大學治安立法に対する反対の斗いが至日いたる所で火を噴かんとしており、昨日には解教講堂前において大學立法粉碎由田學生總決起集会が開かれてゐるところである。これに先づける形で19日東大における斗いをはじめ、埼玉大、一橋大等において新たなる斗いがあこりつつある。

大學治安立法が明確に70年安保斗争とその最中心闘たる沖縄斗争をその最先端となり斗いでいる成斗の學生運動統体にかけられて来た攻撃である事、まさにかかる意味で破防法の大學版としてあることをはつきりとみぬき、帝國主義者によるこのような戦後民主主義の右からうの破壊の攻撃の中で、我々は成后民主主義の防衛の任務をも革命的左翼の任務としてどうえらえすべきことを大膽に確認していかねばならない。いまや10年斗争に突入レ、「安保粉碎・日本帝国主義打倒」の誓と化した大學を我々は断乎として放逐し抜き、全日パリードスト、學園奪還の斗いをもつて、大學立法を粉碎していかねばならない。

14.28斗争の成果を以て、沖縄奪還斗争の第二弾三彈を爆発せしめよ！

學友諸君！かかる大學治安立法粉碎の斗いを通じ、4月に既く再度の大衆的暴力部隊による沖縄奪還斗争を斗い抜いていかねばならない。

佐ト政府は「沖縄が暴力が」の相場により、沖縄ヒ反戦労働者学生による斗いを弾壓せんとする事になつてゐる。まさに彼らの沖縄政策というものがギマノ的或「近邇」論による幻想を手わづづ、その裏、沖縄のアーチの「安寧」に対する重要性についてと、国民の信憑を取り外していくという方向に主要な方向があることをはつきりと見ぬき、愛知訪米、佐ト訪米等でなされるであろう、曰本勅皇帝日本主义によるかかみ方向におけみ沖縄政策の決定を断じて許してはまらない。「核、基地付返還運動反対」をスローガンをかがげる一ト語表にあつては、米帝による沖縄支那の破綻を曰帝の一体化政策によつてとりつくらひ、沖縄の現状を固定化せんとする曰帝の動向についてまったく無知であるだけではなく、現在苦吟する沖縄の人民とその現状を変革する現実が欠け、沖縄はヒもしく本土に核を守らしにまつてはならない」という儀を早くの本土エゴイズムまる出しだある。彼らの4.28斗争からの歸い進む不失してこの事と無縁ではないのである。また東大斗争にかけた度重なる彼らの裏切りと逃亡、早稲田にかけま破産等々、彼らの調落はますますはヤーくなり、何時にもますます庄重且運メンシェビオとしての本質を赤裸々たして行くであらう。

我々は再度の沖縄奪還斗争を、愛知訪米阻止ASPA粉碎として斗い抜いていかねばならない。至ての斗い草及は反戦会議に結集せよ！

分田 12時 明大院中庭——— 明 大院前集会。

結集せよ！